

令和6年度 八王子市立松枝小学校 学校経営計画及び学校経営報告

校長 佐藤 浩

令和6年度 学校経営計画

1. 目指す学校像

- 全ての子供たちに居場所があり、一人一人を大切にする学校
- 子供たちの良さや可能性を伸ばす学校
- 子供・保護者・地域・教職員に愛される学校

2. 教育目標

- ◎まなぶ子（知） 今年度重点目標
 - つよい子（体）
 - えがおの子（徳）
- スローガン「やさしさいっぱい 友だちいっぱい松枝小」

2. 目指す教師像

- 豊かな人間性と思いやりのある教師
- 子供に寄り添い、子供の良さや可能性を伸ばす教師
- 教育愛をもち、児童・保護者・地域から信頼される教師
- 教育に対する熱意をもち、指導力に優れた教師

3. 中期的な目標と方策

<確かな学力を身に付けさせる>

- ① 授業規律・家庭学習の定着
- ② 授業力の向上（分かる・できる授業づくり、ICT 機器の効果的な活用、校内研究の充実、小教研や他の研究機関への参加、自主勉強会の充実、授業観察による指導等）
- ③ 補習や繰り返しの学習の充実（朝学習や放課後学習の充実、個に応じた指導等）

<豊かな心の育成>

- ① どの子にも居場所があり、温かな学級経営
- ② 人権教育・道徳教育の充実（人権教育プログラムの活用、道徳科の充実）

<安全で安心できる学校生活>

- ① いじめや偏見・差別のない学級・学年・学校づくり（いじめ防止対策委員会の充実、温かな学級づくり、アンケートや面接の実施、SC の活用、道徳教育や人権教育の充実）
- ② 特別支援教育の充実（特別支援教室の整備・充実、校内体制の整備や校内委員会の実施、研修会の実施、特別支援コーディネーターや SC ・関係機関との連携）

- ③ 安全指導や生活指導の充実（安全指導・生活指導のスタンダードの徹底、防災教育）
- ④ 施設面の充実

＜組織として機能する教職員＞

- ① 教職員の共通理解（学校教職員全員で子供を育てるという意識付け）
- ② 課題に対して組織的に対応できる体制づくり
- ③ 報告・連絡・相談の徹底
- ④ コミュニケーションや雰囲気づくり
- ⑤ 組織全体で人材育成を図る

＜児童・保護者・地域・教職員に愛される学校＞

- ① 学校運営協議会の充実
- ② 地域行事への積極的な参加と学校行事への招待
- ③ 地域人材を活用した体験的な学習
- ④ 地域の伝統文化や地域素材を生かした学習

4. 令和6年度 of 取組目標と方策

（基本理念）

子供たちの健やかな成長を最優先とし、

- ① 全教職員が共通理解をし、愛情をもって子供たちと関わる。
- ② どの子にも居場所があり、様々な場面で笑顔が溢れるような教育活動を行っていく。
- ③ 困っている人がいたらみんなで支え、組織として迅速かつ丁寧に対応していく。

（重点目標）

- ① 子供たちが「できた」「わかった」と思えるような分かりやすい授業や活動を展開し、基礎学力の定着を図る。（やればできるという自信がもてるように）書く、発表する等の言語活動の充実を図り、学力向上の取組を重点的に実施する。※保護者・児童の肯定的評価8割5分以上
- ② 「特別の教科 道徳」を核とし、教育活動全体を通して子供たちの心を育てていく。
（思いやりの気持ちを大切にし、誠意と温かい心で人に接する、挨拶をしっかりとる、物や公共物を大切にする、時間を守る等の定着）※保護者・児童の肯定的評価8割5分以上
- ③ 子供たち一人一人を大切にする取組を通し、子供たちが自分も回りの人も大切にできるようにし、自尊感情の向上を図る。（温かな学級づくり、温かい言葉掛けや言葉遣い、全ての子に居場所があるように、いじめの未然防止・早期発見・早期対応、毎週 of いじめ防止対策委員会の充実、どの子も活躍できる授業の展開等）

※保護者・児童の肯定的評価8割5分以上 自尊感情は5ポイント向上を目指す

- ④ 特別支援教育の充実（松枝小が特別支援教室拠点校 特別支援教室の整備・充実、松枝小、川口小、上川口小、清水小の児童を指導）

【学習指導】（楽しく分かりやすい授業、基礎的・基本的な学力の定着）

○授業規律のスタンダード（学習の準備、チャイム着席、始業や終業の挨拶、挙手や返事、正し

い言葉遣い、話の聴き方等)の定着

○分かりやすい授業づくり

- ・教室の構造化（児童の視覚的な刺激を減らしたシンプルな教室環境）
- ・授業や板書等の構造化（課題設定・自己追究・相互交流・振り返り）
- ・焦点化（言葉の精選、考えるべきポイントをしぼる、身に付けさせたいことの明確化）
- ・複線化（情報を効果的に発信する、視覚化・動作化・嗅覚化・触覚化・聴覚化・味覚化）
- ・共有化（なんでも言い合える集団づくり、学び合い育ちあう集団）

○ICTを効果的に活用した授業づくり

○家庭学習の定着（音読、計算や漢字のドリル学習、宿題は学年×10分以上を基本とする自主的な学習、等）の定着

○繰り返し学習の充実（はちおうじっ子ミニマムの定着率を前学年の内容90パーセント以上、学びタイム、学期末や放課後子ども教室における補習、外部人材の活用、漢字検定等）

○言語活動・表現活動（書く、発表する）の充実

○体験的な活動、課題解決学習の重視

○人権教育、道徳の時間の充実

○外国語活動の充実

○学校図書館を活用した授業

○体力向上、オリンピック・パラリンピック教育の取組

【生活指導・進路指導】（全教職員が共通理解をし、教員によって差が出ないように同じ指導をしていく）（組織として対応する）

○生活のスタンダード（挨拶、学校のきまりや掃除の仕方の掲示・指導、靴箱・ロッカー・掃除道具入れの指導の徹底、当番活動・係活動の意義の説明）の定着

○生活指導部を中心に組織としての対応（毎週のいじめ防止対策委員会の充実、連絡・報告・相談の徹底、生活指導夕会での共通理解、SCや特別支援コーディネーター、特別支援教室専門員との連携）

○小中一貫教育を推進し、9年間の系統的な生活指導の実践

○キャリア教育の推進

【学級・学年経営】（一人一人の子供たちを大切に、全ての子供たちに居場所があり安心して生活できる学級・学年経営）（学年で共通理解し、同一歩調で指導していく）

○温かな学級づくり（どの子にも居場所があり安心して生活や学習ができる学級経営、担任と子供の信頼関係、子供の言動をしっかりと見て児童理解に努める、いじめ・差別・偏見は絶対に許さない、けじめ等）

○OJTを活用した学級経営・学年経営（副校長や主幹教諭を中心とした自主勉強会）

【特別活動・その他】（子供たちの自主性を育てる、人の役にたつ喜びを実感させる）

○児童の自主性を生かしたクラブ・委員会活動

○たてわり活動を通した思いやりの心の育成

○読書活動の充実と読書環境の整備（学校司書の活用）

○奉仕活動の充実

【学校運営】（子供たちの健やかな成長を最優先とし、教職員が同じ方向性で進む）

○チーム松枝として教職員が一丸となった組織運営、問題解決のための組織的な対応

○安全・安心な学校づくり（防災教育、安全点検、校内修繕）

○地域との連携（地域運営学校の取組、保・幼・小の連携、小中一貫教育の取組、地域行事への積極的な参加、学校行事への招待、地域人材や地域の素材の活用）

○保護者・地域への情報発信（学級だよりは、学年で打ち合わせる。学年で差がでないように）
学級だよりやホームページは、最低2週に1回は発信できるようにする。

○特別支援教室の整備、充実

【人材育成】（みんなで高め合う）

○校内研究の充実

○OJT 研修の計画的な実施

○小教研や他の研究機関への参加奨励

○授業を見合える体制づくり

○授業観察や校内巡視時における指導・助言

令和6年度 学校経営報告

1 教育活動への取組と自己評価

(基本理念)

- ①「全教職員が共通理解をし、愛情をもって子供たちと関わる」という理念は全教職員に浸透してきた。 9割5分達成
- ②「どの子にも居場所があり、様々な場面で笑顔が溢れるような教育活動を行っていく」という理念についても浸透してきている。 9割達成
- ③「困っている人がいたらみんなで支え、組織として迅速かつ丁寧に対応していく」という点においては、いじめ防止対策委員会、特別支援委員会、生活指導夕会、企画会議等で情報を共有し、小さなことも見逃さず迅速に対応してきたため、未然防止、早期発見、早期対応が実現できた。 9割5分達成

(重点目標)

- ①「分かりやすい授業づくり」「基礎学力の定着」の項目は児童・保護者ともに9割の肯定的評価であり、4・5年生が市の平均まで向上、6年生においては市の平均を上回るなど成果が表れてきた。しかしながら、言語活動の充実や校内研究においては、課題が残っている。9割達成
- ②「心の教育」という点については、保護者の肯定的評価が9割5分であり、児童の思いやりのある言動や上級生が下級生に優しく接することが伝統になり、おおむね達成できた。9割5分達成
- ③「子供たち一人一人を大切にする取組を通し、子供たちが自分も回りの人も大切にできるようにする」という点においては、学校評価において肯定的な評価が9割5分以上であった。
「いじめの未然防止・早期発見・早期対応」の点においても、保護者が86%の肯定的評価であり、大きな問題になる前に全て解決することができた。 総合的に9割達成
- ④特別支援教育の充実については、月に2回校内委員会において、配慮の必要な児童について、丁寧な話し合いを行い、指導の方針や適正就学の共通理解が図れた。また、特別支援教室の拠点校として、巡回指導の学校の情報も丁寧に行ったため、拠点校の整備・充実が進んできた。8割5分達成

【学習指導】

- 「授業規律のスタンダードの定着」は定着してきた。 8割5分達成
- 「分かりやすい授業づくり」はおおむね達成でき、児童・保護者ともに9割以上の肯定的評価であった。言語活動の充実や思考力の育成が今後の課題である。9割達成
- ICTを効果的に活用した授業づくりは、各学級で定着してきた。児童は9割、保護者は9割5分の肯定的評価 9割達成
- 「家庭学習の定着」は、放課後子ども教室の取組や学級指導の効果がみられるようになってきた。 8割達成
- 「繰り返し学習の充実」は、松枝タイム、放課後補習、サマースクール、ウィンタースクール、スプリングスクールで実施したが、更に充実させていく必要がある。 8割達成
- 「言語活動・表現活動の充実」は、校内研究で取り組んできたが、日々の授業での取組や各学年の目指す到達点が明確でなく、まだ十分とはいえない。 7割達成
- 「体験的な活動、課題解決学習」は、まだ不十分な面があった。 7割達成

- 「人権教育、道徳の時間の充実」は、授業観察での指導や授業を見合う活動等で充実させることができた。 9割達成
- 「外国語活動の充実」は、教材づくりや指導方法等の研修を実施したが、学校全体での共有が今後の課題である。 7割達成
- 「学校図書館を活用した授業」は、少しずつ取り組んでいるが、やまゆり館との交流はやまゆり館が改修工事のため実施できなかった。 7割達成
- 「体力向上、オリンピック・パラリンピック教育の取組」は、縄跳びや持久走の取組を行い、体力調査の結果は良かったが、まだ改善の余地はある。 7割達成

【生活指導・進路指導】

- 「生活のスタンダードの定着」はしっかりとでき、児童・保護者ともに9割5分が肯定的な評価であった。 9割達成
- 「生活指導部を中心に組織としての対応」は、連絡・報告・相談の徹底、生活指導夕会での共通理解、SCや特別支援コーディネーター、特別支援教室専門員との連携等、組織として対応することができた。 9割5分達成
- 「小中一貫教育を推進し、9年間の系統的な生活指導の実践」については、情報交換や重点指導の共通理解はできたが、学力向上に関する共通理解が今後の課題である。 7割達成
- 「キャリア教育の推進」は、学校では実践しているが、保護者や児童の理解や周知が不十分な面がある。 7割達成

【学級・学年経営】

- 「温かな学級づくり」は、実践できている。 9割達成
- 「OJTを活用した学級経営・学年経営」は、月3回のOJT研修で充実してきた。 9割達成

【特別活動・その他】

- 「児童の自主性を生かしたクラブ・委員会活動」については、自主性という面で改善を図る必要がある。 7割達成
- 「たてわり活動を通した思いやりの心の育成」は、充実した取組を行い、上級生が下級生に優しく接する場面がたくさん見られるようになった。 9割5分達成
- 「読書活動の充実と読書環境の整備」は改善の余地がある。 7割達成
- 「奉仕活動の充実」は、学校全体の取組として不十分な面があった。 6割達成

【学校運営】

- 「チーム松枝として教職員が一丸となった組織運営、問題解決のための組織的な対応」しっかりと実践できた。 9割5分達成
- 「安全・安心な学校づくり」は、おおむね達成でき、保護者の肯定的な評価も9割5分以上であった。 9割5分達成
- 「地域との連携」は、学校運営協議会の委員の方とは連携や地域との連携ができ、放課後子ども教室の学力向上の取組やおむすび大作戦の取組等、充実してきた。 9割5分達成
- 「保護者・地域への情報発信」は、保護者の肯定的な評価が100パーセントと高い評価をい

ただいた。学年毎のホームページの充実が今後の課題である。 9割5分達成

【人材育成】

- 「校内研究の充実」は、年3回の研究授業を実践し、研究を深めた。しかしながら、言語活動の充実という面にはまだ課題が残っている。 8割達成
- 「OJT研修の計画的な実施」は、各教員の専門分野の指導法を紹介したり、研修してきたことを広めたりと、年間32回計画的に実施でき、教員の指導力向上に繋がった。9割達成
- 「小教研や他の研究機関への参加奨励」は、全教員が小教研に所属し、指導案検討や研究授業等で授業力向上に努めている。都の研究機関で研究を進めている教員もいる。9割達成
- 「授業を見合える体制づくり」は、誰でもお互いに見合う雰囲気は定着してきた。9割達成
- 「授業観察や校内巡視時における指導・助言」も副校長とともに充実させることができた。9割達成

2 次年度以降の課題と対応策

- ①大きな課題は、基礎学力の定着である。少しずつ改善されてきているが、更に力を注いでいく必要がある。その課題解決のためには、家庭学習の定着と外部人材の活用である。放課後子ども教室で、2名の家庭教師を活用し、家庭学習の定着や漢字検定・数学検定の補習等の取組を行うことができた。今後は、教員の授業力の向上が不可欠である。若手教員が多い現状を考えると、校内研究やOJT研修で授業力向上を図っていかなくてはならない。特に自分の意見を持ち、意見交流し、自分の考えを深めていく授業づくりに転換し、思考力や表現力の育成を目指していく。また、個別指導や補習体制の充実も図る必要がある。そのためには、校内体制で補習の指導していく必要がある。
- ②いじめ防止対策委員会を充実させ、いじめの未然防止、早期発見、早期対応を図っていく必要がある。小さなことも細かく丁寧に対応し、いじめを少しでも減らしていかなくてはならない。それと同時に道徳科を中心とした心の教育や人権教育に力を入れ、どの子にも居場所があり落ち着いた学校の雰囲気を定着させていかなければならない。配慮の必要な児童や課題を抱えた家庭が多い現状を考えると、心の教育の充実は欠かせない。また、家庭の課題を抱えた不登校児童への対応についても、スクールカウンセラーや子供家庭支援センター、SSWとの連携を密に図っていかなくてはならない。
- ③教務主幹や生活指導主幹の育成、ミドルリーダーの育成、若手教員の育成等、人材育成が課題である。主幹教諭には、企画会議に参加させ学校経営に参画している意識を高めていく。主任教諭には、組織の主任を担わせ組織をまとめる経験を積ませる。また、OJT研修の担当をさせ、人材育成の意識を高める。若手教員には、積極的に授業公開や研究授業をさせることで授業力向上を図っていく。

- ④特別に配慮の必要な児童が多いため、特別支援教育の充実が欠かせない。特別支援教育専門員、特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラー、担任等との連携を図り、特別支援教育の充実を図っていく。また、特別支援教室の拠点校として、毎月の特別支援委員会において本校児童や巡回校の様子等の情報交換を密にとり、共通理解した上で指導の充実を図っていく。本校の特別支援教育を中心となって推進してきた主任教諭が異動となるため、その穴埋めのために、特別支援教室の全教員が共通理解を図り、特別支援教育を推進していく必要がある。